

彙報 (平成二十九年年度)

身延山大学国際日蓮学研究所は平成二十九年年度において以下の活動を行った。

○平成二十九年年度 国際日蓮学研究所例会

【第一回】平成二十九年六月二十八日(水)

天台・法華章疏の刊行と流通

南 権熙(国立慶北大学校教授)

○第七十回日蓮宗教学研究発表大会

第七十回日蓮宗教学研究発表大会が平成二十九年十一月十日(金)から十一日(土)にかけて、身延山大学にて開催された。また今回は七十回記念大会ということで記念講演が開催された。

○大会役員

総 裁	総本山身延山久遠寺法主	内野日総
顧 問	身延山学園理事長	井上瑞雄
顧 問	身延山大学長	浜島典彦
会 長	身延山大学国際日蓮学研究所長	望月海慧
副 会 長	身延山大学仏教学部長	望月真澄
準備委員長	身延山大学国際日蓮学研究所主任	木村中一

【記念講演】

一、開催の辞	
二、挨拶	浜島典彦
三、挨拶	上田本昌

四、講師紹介
五、記念講演
望月海慧

(一)、「日蓮学への新しいアプローチ——凡夫成仏論を中心として——」

ジャクリースエー・ストーン(プリンストン大学教授)
(二)、「近代の日蓮教学研究についての回顧と展望」
渡邊寶陽(立正大学名誉教授)

【個人発表】(当研究所関係者のみ)

中世身延門流の教学

——日海『初心行者位見聞』の検討—— 都守基一
近世における鎌倉の日蓮聖人霊跡について 寺尾英智
子育て支援活動における建学の精神の具現化と新たな気づき

——身延児童館での実践から—— 伊東久実

『妙法蓮華経』各品目の字数と発語者について 岡田行弘
法華経提婆品編入に関する試論 池上要靖

○ラオス世界遺産修復プロジェクト

一、日時 平成三十年二月十五日～同年三月十日

二、場所 ・ラオス人民民主共和国ルアンパン県世界遺産

地域内
・同国ヴィエンチャン特別市
・同国シエンクワン県

三、参加者

《日本側》十三名

参加者名	所属
三輪 是法	身延山大学教授

柳本 伊左雄 身延山大学特任教授

木村 中一 身延山大学准教授

ジル・エマ・ストロースマン 身延山大学特任講師

鈴木 義孝 身延山大学 研究員・現地駐在員

岡村 達人 身延山大学 研究生 他

《ラオス側》 十四名

参加者名

シンテーク 情報文化観光省美術工芸局 課長

ニーヴォン 情報文化観光省美術工芸局 技官

ソンブン 県情報文化観光省支所 技官

シートン 国立美術工芸大学 木彫講師

スワンカム 国立美術工芸大学 陶芸講師

ソムチャイ 国立美術工芸大学 絵画講師

パイワン 国立美術工芸大学 木彫講師 他

a) 仏像修復事業

・木彫仏二体

・ 鑄造仏三体

・ 塑像仏一体

b) 仏像修復技術者育成事業

・ 国立美術工芸大学、情報文化省美術工芸局技官、県国立美術工芸学校、及国立王宮博物館の講師・技官・研究員

を対象に仏像修復技術指導を行う。

c) 仏像安置状況及盗難仏調査

・ 世界遺産地域内全三十五ヶ寺を対象に、仏像目録(二〇〇六年本事業作成)を基として、現在の安置状況や盗難

仏の有無等、追跡調査を行う。

d) 仏像修復技法に関する調査・研究

・ パタイベットの制作方法・材料の調査研究

・ シェンクワン県ワットピアット寺院に現存するパタイベットの調査

・ 鑄造技術研究・調査

e) ・ 仏像修復テキスト制作準備

国際日蓮学研究所役職員(平成二十九年度)

顧問 岩田諦静、上田本昌、高橋堯昭、長澤市郎、宮川了篤、望月海淑、山田英美

所長 望月海慧

主任 木村中一

副主任 檜木博之

所員 池上要靖、伊東久美、金 炳坤、田沼 朗、長又高夫、浜島典彦、間宮啓壬、三輪是法、望月真澄

客員所員 岡田行弘、岡田真水、加賀美尤祥、北村愛子、桑名貫正、小谷みどり、庄司史生、鈴木隆泰、武見敬三、寺尾英智、福土慈稔、蓑輪顕量、柳本伊左雄、吉田永正、渡邊寶陽、Jonathan Alan Silk、金 天鶴、Lucia Dora Dolce、Jacqueline Iyse Stone

研究員

片山由美、木村良勢、黒澤あゆみ、佐々木さち子、鈴木 稔、都守基一、富山美由紀、中井本勝、永利郁乃、中野一茂、西 康友、榎殿伴子、村瀬正光、望月香代、GIGLIO Emanuele Davide

Jill Emma Strothman

研究生 池田優季名、岡村達人、鈴木義孝、宮坂葉子、
森田信宏、依田 司

○研究所員による海外研究発表・講演など（主要仏教関係のみ）

平成二十九年五月十八～二十二日

三輪是法：「一念寺紀年法要 記念講座」（マレーシア、ペナン

島一念寺）

平成二十九年七月一日

木村中一：身延山と東アジアの至宝「金剛大学校仏教文化研究
究所招聘講演」（大韓民国、金剛大学校）

平成二十九年八月二十一日

望月海慧：A Commentary on the Lotus sutra translated from

Chinese into Tibetan [XVIIIth Congress of the
IABS 第18回国際仏教学会]（カナダ、トロント大
学）

平成二十九年十月十九日

金 炳坤：元暁の『菩薩戒本持犯要記』が日本仏教に及ぼし

た影響「東国大学校二〇一七年秋季国際学術大会
韓国仏教文献の定本化と拡張性」（大韓民国、東国
大学校）

平成二十九年十一月十六日～十八日

三輪是法：『天台四教儀』と日本仏教「東国大学校仏教文化研
究院二〇一七年招聘研究会」（大韓民国、東国大学
校仏教文化研究院）

平成三十年二月一日～三日

望月海慧：身延文庫所蔵の論書について「2018年韓・日
共同経蔵文献調査及び研究学術大会」（大韓民国、
国際会議場・大韓仏教曹溪宗）

木村中一：身延文庫沿革史小考「2018年韓・日共同経蔵
文献調査及び研究学術大会」（大韓民国、国際会議
場・大韓仏教曹溪宗）

○平成三十年二月二十四～二十五日

三輪是法：「観心本尊抄講義Ⅲ」（マレーシア、ペナン島一念
寺）

○平成三十年三月一日～九日（予定）

望月海慧：ハーバード大学（アメリカ）

○研究所学術交流・学術交流

本研究所では現在、大韓民国東国大学校仏教文化研究院及び大
韓民国金剛大学校仏教文化研究所、大韓民国高麗大蔵経研究所と
学術交流を行っている。特に本年度は、金剛大学校仏教文化研究
所と「学術交流協定」（於、金剛大学校／平成二十九年七月一日）
の更新、さらに高麗大蔵経研究所と「身延山大学国際日蓮学研究
所と社団法人高麗大蔵経研究所との学術交流に関する協約書」
（於、曹溪寺／平成二十九年六月三十日）の締結を行い、①研究者
の交流（協定書二条一項）、②共同研究の実施（協定書二条二項）
を中心としての学術交流協定がなされ、今後の共同研究学術大会
開催（於、国際会議場〈曹溪寺〉／平成三十年二月一～三日）で認
識の一致をみた。

○参加者（全行程共通・本研究所員のみ記載）

身延山大学国際日蓮学研究所長

望月 海慧（身延山大学教授）

身延山大学国際日蓮学研究所主任

木村 中一（身延山大学准教授）